



日本証券アナリスト協会 認定アナリスト CMA資格

CMA資格は金融・投資等の分野において、深い専門知識と高度な分析能力、高い職業倫理観を習得することにより、企業活動や市場環境から投資価値を評価するプロフェッショナルの証です。

——それは時代が求める資格——

的確な分析・評価を行うためには、市場や時代の動きを見極めるスキルが必須です。

例えば、企業がどのように成長し、どのように企業価値を高めるか、そしてその判断をどのように資産運用に活かすのか。

様々な場面で必要とされる分析力に応えるスキルを、CMA資格の取得により身につけることができます。



CMA資格をもっと詳しく

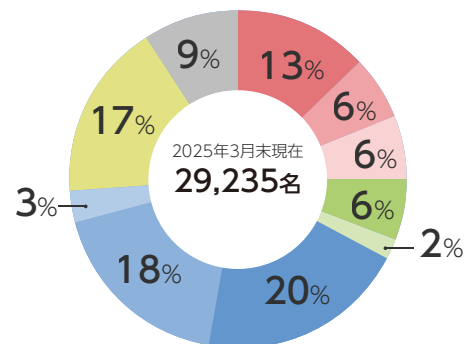
<https://www.saa.or.jp/landing/cma/>



第一線で活躍するCMA

金融・投資のプロであるCMAは、証券会社、銀行、運用会社、保険会社はもとより、金融業界以外でも企業のIR（投資家向け広報）や財務、経営企画、システムエンジニア、監査役、社外取締役など、様々な分野で活躍しています。

- 銀行
- 信託銀行
- その他金融
- 生命保険
- 損害保険
- 証券会社
- 投資運用
- 調査研究所
- 事業会社等
- その他



CMAインタビュー

https://www.saa.or.jp/cma_program/step/voice/



経理と財務の有機的な関連を学べる一石二鳥以上の内容が詰まった資格。合格して数字への苦手意識はなくなり、違う景色が見えるようになりました。

三井物産株式会社
谷川 敬祐さん(CMA)



ゼロから始めた金融関連の勉強で学んだ知識は仕事に直結。『使える』と実感したから、金融に強いエンジニアになろうと決めました。

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
福永 圭佑さん(CMA)



仕事で使える様々なフレームが詰まっているから、活用範囲も広い。これまでと違った尺度が身につき、仕事の幅がぐんと広がりました。

富士フイルム株式会社
岩屋 薫さん(CMA)

※掲載内容はインタビュー時点の情報です。



公益社団法人
日本証券アナリスト協会
The Securities Analysts Association of Japan

実践的知識・手法を体系的に学ぶ(6つの学習分野)

**① 証券分析と
ポートフォリオ・マネジメント**

株式分析 債券分析
デリバティブ分析
ポートフォリオ・マネジメント

証券投資の代表的資産である株式と債券の評価・分析、投資手法の高度化に有用なデリバティブの評価・分析、資産運用の実務に不可欠なポートフォリオ・マネジメントの理論

科目Ⅰ

② 財務分析

財務会計の概要および基本的な会計基準、財務諸表の基本的構成、財務分析のための分析指標や分析手法等

③ コーポレート・ファイナンス

コーポレート・ファイナンスの理論や企業の経営戦略分析、コーポレートガバナンス、企業価値評価手法等

科目Ⅱ

④ 市場と経済の分析

ミクロ・マクロ経済、財政・金融、国際経済等

⑤ 数量分析と確率・統計

証券分析等に必要となる数量分析の基本や確率・統計など定量分析の基礎

⑥ 職業倫理・行為基準

「証券アナリスト職業行為基準」の目的・意義と重要性

科目Ⅲ

※ 科目Ⅰ～Ⅲは第1次試験の試験科目名



- 証券などの投資対象や企業価値の分析手法、資産運用手法
- 企業戦略から投資の意思決定や評価、リスク管理の手法
- 産業・経済・市場・経営に対する深い洞察力
- 定量分析はもとより、定性的な要素も結び付けて考えるアプローチや手法

資格を取得する

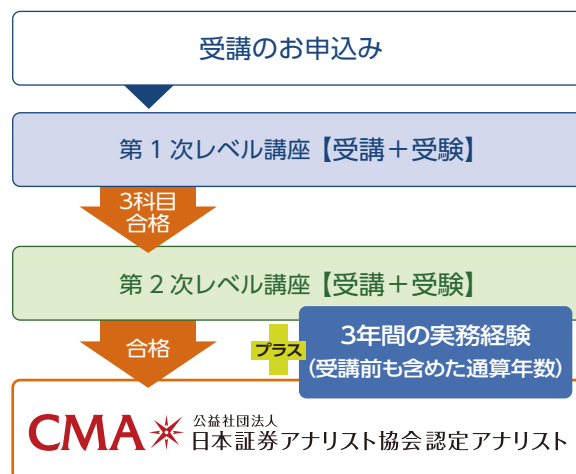
第1次レベル講座、第2次レベル講座を、順に受講し試験に合格後、実務経験が3年以上と認定され、入会することで『日本証券アナリスト協会 認定アナリスト (CMA)』の資格称号を使用することができます。

受講、受験、実務経験など、詳細はスタディ・ガイドをご覧ください。



スタディ・ガイド

https://www.saa.or.jp/cma_program/cma1/material/index.html#study_guide



就活・配活にも役に立つ!!

- 第1次試験の合格だけでも、金融業界への志望動機としてアピールできる
- 入社後は実務経験を積みながら、資産運用部門への異動など、新たな配属先の希望を強くアピールできる
- 業界を問わず、企業活動や経済を多面的に見ることができるようになり、視野が広がる

■ 本紙の最新情報は協会ウェブサイトでご確認ください。また、本紙の文章・画像等の内容を無断転載・使用する行為はご遠慮ください。

